

毎年二月の大体友引の日曜日が多いのですが、かっぱ村の新年会が、かっぱ寺にて行なわれます（正式には、河童連邦共和国が、浅草かっぱ村を中心に、上野・日本橋・江戸川、おいてけ堀・牛久・川越・武蔵野・利根川など近郷の、かっぱ村が集まるという事になります）。

この月の、かっぱ村の新年会の時、今村先生が私に「今度のかっぱの新年会の時、一人芸人を連れていっていいかな」と言われるのでした（一寸前述しましたね）。

「ええそれは嬉しい、是非お願いします」と言う事で、この年の、かっぱの新年会は、二人のゲストが登場することになりました（一人はもちろん、今村先生で、ハンケチの手品やふすま芸をやります：うまいもんだな）（そしてもうお一人が、左図の「みす乃家南玉さん」でした）

「さては、南玉玉すだれ」♪

粹に、てぬぐい一寸のせて

「富士のお山に、よく似たり」♪

♪「お目に止まれば、元へと返す」

「さて、さて、さては、南玉玉すだれ」てな感じで、かっぱ達は拍手くでした。

さてその南玉さんが、今村先生から教わった、と言う、「風流物売りの声」（今村先生の物売りの図をめぐりながら：（左図）

「えー、オセンにキャラメル」：これはありませんね。

江戸の生活が、目に浮かんできます。この日は、獅子舞までしてくれましたので、汗だくです。（有難うございました）（子供達も大喜びでした）。

南玉師匠の、この「風流物売りの声」は、この本でも、又、後半の方で出てきますので：お楽しみに。

さてこの頃、マンガの仲間で、秋玲二先生御夫婦と、両国のちゃんこ鍋屋さんで、一杯しまして、山東京伝のお墓などを、見ました。

草浅君の+

歩女蔵

96 精華小コミュニティまつり



原えつお



蔵前四丁目にある

精華小学校で

江戸の物売り

の江戸や

太神楽をやる

というので

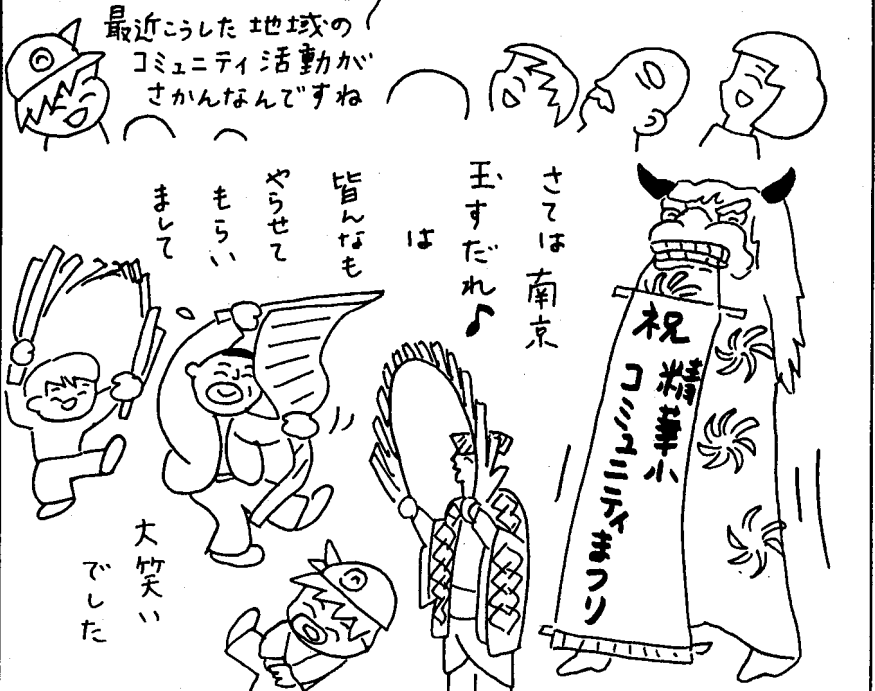
見に行きました。

みすけ家南玉さん

こと

鏡味仙七郎

さん



最近こうした地域の
コミュニティ活動が
さかんなんですね

さては南京

玉すだれ

は

皆んなも

やうせて

もうい

まして

大竹天

でした

さて左ページは、月刊「浅草」の版元、東京宣商の小島社長さんの奥様より、「こんなお祭りもあるのよ」と言われて、一寸、おじゃまさせて頂いたものです。

丁度、この頃、「浅草文庫講演会」は、第三回で浅草寺の清水谷孝尚師でした。そのお話しの中でも、熊谷稻荷が一寸出てきました（昔は、浅草寺と三社さまの間あたりにあったのですね）。

熊谷稻荷御眷属大祭は、全くけっこうなお祭りで、大変ごちそう様になりました。

清水谷師のお話しは「浅草寺史話」ということで、多岐に渡り、又、川柳などもまじえ面白くお話しして頂きました。このお話しは、三回に分けてかかせて頂きましたが、この二回目をかいた時、「浅草文庫講演会」のリーダーの橋本さんが、「えらくうまく描けたじゃあないか」と、その良く見えぬ目で見てください、ほめてくれました（橋本さんは、ずつうと透析も受けておられ、具合が悪く、この頃、殆ど目が見えなくなっていたのです）。（橋本さん有難うございました）。（この図も次ページに載せさせていただきます）。

清水谷孝尚師は、きさくな方で、この図（いつも講師の方に見て頂いてから、印刷に回します）「面白い」と言って、笑ってくれたのでした。

この頃、今村先生の会で、湯河原に一泊しました、出版美術連盟の、中一弥先生、伊勢田邦貴先生・鬼平のプロデューサー、市川久夫先生・「浅草」誌でもお馴染みの、占い師、黛志芳さん・逗子とんぼさん・サザエさんを作っている、鷺巣政安さん、行徳の菓匠、京山さん、写真家の、高田米造さんなど、又又、壮々たる人々の中、私もその盛り上がり、調子に乗り、得意？ の森進一を唄い、酔っ払っていつの間にか、寝ていましたが、枕がありません。手探りで枕を探したら、「わっ」という声、私は今村先生の枕を取ってしまったのでした（先生スミマセンデシタ）。

君の浅草散歩

⑨7 熊谷稻荷御眷属大祭

原えつお



さて浅草寺には

平安時代の

天慶五年 （たいけいのきんご） 平公雅

が堂塔伽藍を

再建したり

その後鎌倉時代

治承四年源頼朝が

戦勝祈願に立ちよった

リしました。何といまして

観音様が、にぎわうように祈りました。

徳川家康が、江戸に

幕府を開いてから

でした。すげわち

天正十八年（一五九〇）天海大僧正

の推めで

祈願所となり五百石を寄せられた。

（丁度、江戸城の鬼門

の方角だったのです）



徳川時代の

中興第一世の忠言上人という人は、

香吉に、七ぼされた （小田原） 北条家の家臣、

遠山直景の次男で、いわば、遠山の金さん

の關係に当る人。この時に、浅草寺の

支院が三十三ヶ寺に整理された。



「天正年中より堂社僧院涌く如く
起り、坂東無双の巨匠となる」
と、坂東霊場記（江戸時代刊）
にあります。どんどん大きくなったの
です。



中興第二世の

観音院中心尊は

江戸城内の紅葉山

東照宮の別当になり

それ以後は

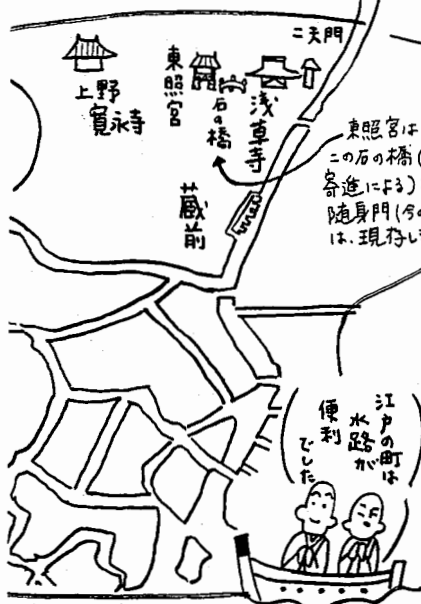
毎日、水路で

観音様のお坊さんが

二人、お祈りに行っ

たのだそうです。

師 尚 史 話 2)



東照宮は消失しましたが
この石の橋（浅野家の
奇逢による）と
隨身門（今の、二天門）
は、現存します。

江戸の町は
水路が
便利
でした



浅草文庫 第三回講演会より

講師 浅草寺善龍院 清水谷 孝

浅草寺 (その



と 言 い ま す か ら
す こ い も の で す。
当 然、本 人 は 追 放
浅 草 寺 も、徳 川 家 と
ま ず く な り、寛 永 寺 の
支 配 を う け る と い う、
お ま け つ き。

中興第三世の
智樂院忠運という人は
仲々の豪の者！
生類あわれみの令の、その
御本人・徳川綱吉公へ
犬の皮をはいで届けた



助けるも
迷わせるのも
浅草寺



明暦の大火後
今の人形町あたりから
遊里吉原か
移って
きます。



(一六五七)

もちろんその前には
観音様の境内に
東照宮が出来た
(元和四年・一六二八)
のは、徳川家との
密接な関係を示す。



と 言 う よ う な お 話 は 次 回 へ

さて左図は、鮎あゆにコイした男、鮎金さん。色々な会合で、お見掛けしていましたが、お話を聞きましたのは、この日が初めて：

なにしろ、フナ恋も、ここまでくると、立派としか、言い様がありません。鮎金さんは次々と、鮎に関する置き物・画・資料などを見せてくれます（ここまでくると寒気さえ覚えました）。偉いのは（フナの日）隅田川に、鮎の稚魚を放流されている事です。この頃、どこの河川でも、横文字のわけの判らない魚が増えているそうですから、日本古来の生態系を守る為にも、嬉しい事です。

隅田川と言え、この頃の「浅草文庫講演会」は、橋場にお住まいの、横田貢先生でした。「べらんめえ言葉あれこれ」と言うお話しでしたが、先生（私は後日、勝手に「橋場の先生」と呼ぶ事にしました）は、その他にも、「江戸」についての御造詣が深く、色々教えて頂く事になるのでした。

「先生、今は江戸ブームですね」と言いますと、笑われて「江戸はいつでも人気があるよ」と言われたのが、印象的でした。

江戸：と言え、この前の年の十一月（昔風に言え、霜しも月）に、「下町グルメクラブ」と言う会があり（新聞社で募集していた）、ゲストに、しょっちゅう、江戸時代に「時間旅行タイムトラベル」をしているという、杉浦日向子ひなこさん、と言うのと、会場が「鳥金田」さんと言うので、申し込んだのです。

遅れて行った私は、何と！ 杉浦さんの隣の席に座すわれました、（周りの人は皆、親切な人たちばかりですね）。（美女の隣で、つい、箸も進みません）（一緒に食べましょう、と杉浦さん）、鳥鍋は二人で一つを食べるのでした。「何か質問のある人は居ゐませんか？」、次々に皆は、江戸についての質問をします、大したものだな、そして感じのいい。江戸時代にタイムトラベルしている人は違うなと思っていましたら、程なくして、私も、二万年前まで、行く事になったのでした。

その1 横田貢氏

てやん
でい
べらんめえ
こちそう
江戸子
でい

てな調子で
色々な
江戸ことばがあり
ますか、特に
べらんめえを中心
に、面白いお話しを
お聞きました。



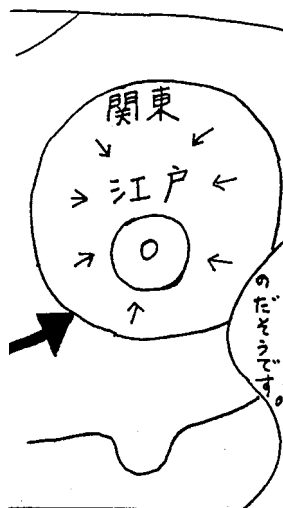
さて宝暦十三年(一七六三)

「べらんめえ」の原典と
思われます

「べらんめえ」の
お話しです
何と！

大阪の道頓堀の
お話しです

顔全体がとがっていて
眼は赤く丸く、頬にもくくり
ば、立派な人物を見せ物
に出し、
大評判！これを
「べらんめえ」と言った
可坊！



さて、そうした畸人物の大流行
にも伴い大阪から、江戸へ

「得体の知れないもの」という立見で

「べらんめえ」は伝わり

宝暦十三年(一七六三)

源内先生作の

「根南志具佐」などの中に、ふんだんに
出てきまして、「バカ者」の意に
使われています。

又、それから時代は下りまして
天明七年(一七八七)

京伝先生作の遊里

吉原をかた

作品に

「べらんめえ」

が、出てき「めかうすや」という
様な意味に、なってきました。



(平賀源内)

第4回 浅草文庫講演会より

べらんめえ言葉あれこれ

講師 文教大学教授

(清川生れ、橋場にお住まい)



さうに時代は、下リ文化・文政の時代に向い式亭三馬の「浮世床」には、町内のご隠居さんや、うち小僧も使う例が出ています。



いやあ江戸二とばの代表のべらんめえが元々は大阪の生れとは、知りませんでした。



By 原えお



こうしてだんだん大衆化されたべらんめえが江戸の町の人口増加にしたがい文政期にはべらんめえに、亦ってこのです。

次回 は、この (べ) (ら) (ん) (め) (え)

の 一 つ 一 つ の 正 体 に つ い て な ゐ 面 白 い お 話 し で す。 お 楽 し み に。

さて、ポポ君が百回を招え、何かそれにふさわしい人について、一寸二・三回続けて詳しくかいてみようと考えていました。

当初は、「中山晋平」さん：浅草の千束小で先生をやっていたというお話しに興味を持ち：にしように思っていました。ある日偶然、岩波文庫でしたが、相澤忠洋^{ただひろ}著の「岩宿の発見」を読み、びっくりしました。

相澤忠洋という名は実は、教科書で、少しは、うろ覚えでしたが、一寸前に、「河童連邦共和国の、河童サミット（全国のかっぱが年一度集まる）にて（群馬県黒保根村にて行なわれました）、隣に、この相澤忠洋さんの夫人が座られ、近くの会員の方に紹介されたのです。しかしこの時も、教科書にある、その名前を鮮明に思い出すまでには、恥ずかしながら至らなかったのです。

それが、たまたま近所の書店で買ったその本を見て、思い出すばかりか、浅草にも深く関係した、氏の経歴なども知り、びっくりし「これだ、百回は、この人についてだ」と思ったのです。

日本の考古学の歴史は、明治の初め、東大の教授として赴任された、モース博士から始まります。いわゆる、大森の貝塚の発見です。そして、相澤忠洋さんの、岩宿の遺跡の発見は、それに続く、一大発見だったのです。すなわち、日本の旧石器時代の発見だったのです。

相澤さんの発見は当時（昭和24年）の考古学会では、天地をさかさにした様なものだったのです。すなわち、日本は火山国なので、縄文以前には、人は住んでいなかったと考えられていたのです。つまり一万年の歴史でした。それを氏は、その倍の、二万年前から、日本に、人が住んでいたのを証明してしまったのです。

是非、前述の「岩宿の発見」を読んで下さい、おすすめ致します。

おたの君の浅草散歩

100 相沢忠洋さん その1



相澤さんの続きを一寸……しかも氏は努力の人で、浅草の花川戸のはきもの屋さんに勤めながら、夜間小学校へ通ったり、岩宿の発見の時も、発掘調査の爲でもあり、納豆の行商をされていたり、何度も自転車で、東京まで往復されたり……。

しかも、その後も自力で、八万年前の世界まで掘り進めてしまうのですから、一寸考えられない人ですね。（今では、氏の開けた扉は、さらに氏の意志を次いだ人々により、さらに開かれ、何と！日本には50万年前にも人が住んでいた事がわかってきたのです）。

さて左ページは、見返り豆腐さんです。この一寸前、岡本文弥師匠の白寿の会を見ました。樋口一葉も、仲々良いものだなと思いました。

この頃、今村先生と、かつぱ寺の御隠居の具合が悪い、という話が伝わって来たのです。しばらくして、お二人共、持ち直した、という話がまた伝わって来て、明治の人は強いな、と思った次第でした。

それからしばらくして、東浅草の哺育会浅草病院という所に、今村先生が入院されたと知り、下の子（先生と初めてお会いした日の次の日に生まれた）とお見舞に行きましたが、先生は意外とお元気で、うちの子と握手したり、質問したりするのです……。

「何が好き？」

「あそび」

「そりゃあいい」

それから又ある時、お見舞に行くと、先生が長年描いておられる上野鈴本のピラ画などくれるのでした。

それから先生は退院され、上野桜木町の御自宅へ戻られてから、下界（浅草）へ、降りてこられる事は、なくなつたのです。

浅草散歩 君の浅草散歩



102 廻れば大門見返り豆腐



原えつお

これがねさび正油で、イナます

浅草「見返り豆腐」電泉 3-41-8 TEL 5603-4885
さん ヒヤヤッコ

会より

ぐい その2

桂司氏

さて花月号で

江戸第一の人氣者

山東京伝氏が

当代人氣の各氏に

よる

「めぐい」展

を催し

それをまとの「たな久い

阿は「阿は」という本にした

と、かかせて頂き

ました



さてその79点のうち

16点、川上さんは

復元されたのです

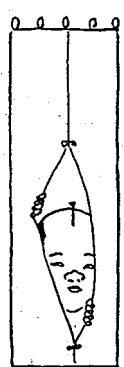
それを次々

見せて頂きました

その内より5点ほど

御安内致し

ましよう



これは、土京伝の兄弟弟子、北尾政美（後の
鍬形兼斎）の作品・大碇（イカリ）

大垣で斬新な
デザインですね

これは、京伝自身の作品、「江戸生色気
樺焼」の主人公の顔、衆屋ロかう客席を
のぞいているところだそうです。あいさようの有る

この自昇は、京伝自身として、もてはや
されました



これは、五代目・市川団十郎

二つ合わせると

団十郎の三升の紋が

出来上るのです

シヤれてますね

川上さんは、この
「たな久い阿は」(天明手拭国策)
の本がどうしても欲しくて12年ぶりで
淡路島まで行ったのだ
ようです

2

第5回 浅草文庫講演

山東京伝と江戸てぬ

講師 弁天山ふじや 川上



ほんこ
これは、大釜です
中国の故事に出て
くる有名な二十四孝
の郭巨の掘り出し
た釜が
実は深川製だった
と言ふシャレがついて
います（深川は当時
有名な釜師がいたらしいです）



しかれ江戸の人の
遊び心で
すごい
です
ね



その他、当時の歌舞伎役者の人の装束な
てぬぐいなど、次々と見て頂きましたが
御案内できなくて、残念です。



これは
目だけで
巨大な
鯨を
表わして
いるのです
すごい
花相心ですね

へ先生の
笑顔は
いつも
素敵で
した

鷺巣さん ↓

とんぼさん ←

今村先生 ←



◎ 湯河原にて

↑ 高田米造さん

◎ 奥山風景にて

仁丹塔が
スレふりに
更生(よみがえ)り

ました。

(嬉しかった
です。)





みみ
 ← 音羽 三美さん
 (沢正さんの御常連の
 一人)
 今村先生も、月刊
 「浅草」の表紙と
 三美さんをモデルに
 描きました。

✓ 関敬六さん
 と
 うちの子です

(
 敬六さんは、フランス座時代
 よりうちに時々
 来てくれました。)
 敬六さん



「オレンジ電車」いつも田原駅から
この電車で私の夢が運ばれました

ゴォー、ゴトンゴトンゴトン

時々ガタガタガタ　そして時々　照明が消えます　ほんの一時の暗闇

神田の穴から外へ出ます

(神田は星空の町)

いつも私の夢見るスターや友人に会いに
行くのです

ゴトンゴトンゴトン

新宿―

(この町も夢の続き)

かっこつけたつもりの不精ひげ

フーテンに間違われました

大泉学園―

(さらにワクワク)

すすきの穂の光る道を歩いて行きます

みんなこのオレンジ電車が運んでくれました。不器用な音をたてて。

世の中が皆スマートになって　音もしない、匂いもしない、バイ菌いない　と言うものが喜ばれる

時代になりました。人々の顔も何となく同じ顔になってきた様です。

ゴトンゴトンゴトン　ゴトンゴトン

ガタガタ　ガッタ　ガックン

「あっ」!

「あっ　ついた」!　灯がつきました。

浅草からも、こうゆうものがどんどん無くなつていきます。電車も、建物も、そして人も、心も。

浅草も、どこの他の町にあるようなコンビニ店や、チェーン店がどんどん増えて来て、他のどこの

町と同じような町になってきました(私もよく利用しますが…)

「私は!　こうした古いかも知れないけれど、人間らしいものを大切にしないと!　浅草の未来はな
いと思うのであります!」オワリ

(終りの二行は演説調で読んで下さい)。

お父さん 浅草 散歩 (あ り が と う)

(105) さよなら オレンジ 電車 原えつお



だんだんこやうの減りますね。



平五年七月三十日

管団地下鉄

銀座線の

オレンジ車両がなくなる

と云うので

五・六分待ち・やっと

乗りました

ガンゴトン

コーキレ

時々まっ暗

人面

らしい

車両でした

平成5年9月号

引退後は車両を改造し、日立電金失で走るのだそうです。いきなり
明るいいところに出て、一寸心細いです。

より 隈

館・元事務長



☆
ご存じ！
☆
新派の
花柳章太郎丈は
浅草にとても
関係のある人
だったそうです
☆
(昭和40年に七くはり
ましたが、生きていれ
ば来年で、生誕百年(今年
は99年で白寿となり
ますので)、やかりの浅草の人
と、偲ぶ会にしたいとい
うことと話して頂きました。)

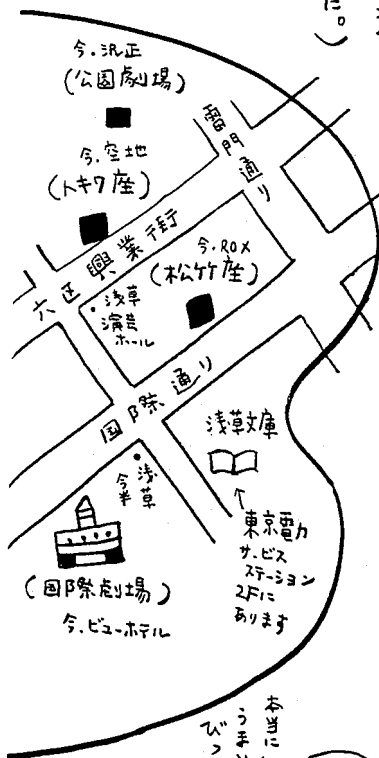
☆
大正14年・松竹座で
「金色夜叉」を
やりました。



☆
昭和2・3年ころ

田原町の馬のそばで
新婚時代を送ったそうです
(そのあと 柳橋へ移り
30年住んだのだそうです)

(このころ、松竹新劇団を作り、丸1年
松竹座で、がんばったのだそうです)



☆
貴重なスケッチや
写真を次々に
見せて
頂き
ました
浅草のスケッチや
芝居に関する絵
など
たくさんで
うまいね
うまいね



本当に絵が
うまいので
びっくりしました

第6回 浅草文庫講演会

花柳章太郎と浅草界

講師 早稲田大学演劇博物館

絹川正巳先生



By
原つあ



☆ その他、東京の呉盟会から、きもの博士 第1号の称号を、もらったお話しや、 最期の舞台のお話しなど、お聞きしました。紙面の関係で、かけはくして残念です。

◎ 次回の「浅草文庫講演会」は、6月29日の予定です。

より



元々、お神輿は
関西の生れの
ものですが
竹根の山を境に
関東型と関西型
に分かれます

お話しです

その型の

今回は

で

お神輿のお話し

さて前回につづき



大体、関西のは
白丁、えぼし
をかぶって
しずしずと
運ぶって
かんじで
すが

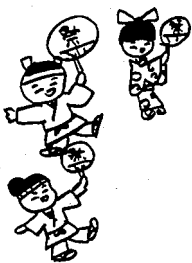


関東
は
荒っ
ぽいな



目取も、三社さまのお神輿は
徳川家光の参道になる
もので、元は日光の
東照宮、東照宮は
関西から宮大工かまっています
から、関西型のところもあります。

又、台輪(左バジを
見て下さい)及び屋根の
形により、大体99%は
方形(四角形)ですが
五角形(五日市などにあり)
六角形(深川など)
七角はなく
八角形(佃など)
有るのだ
ようです



「えー
八角形なんて
あるんだ」

浅草文庫第7回 講演会

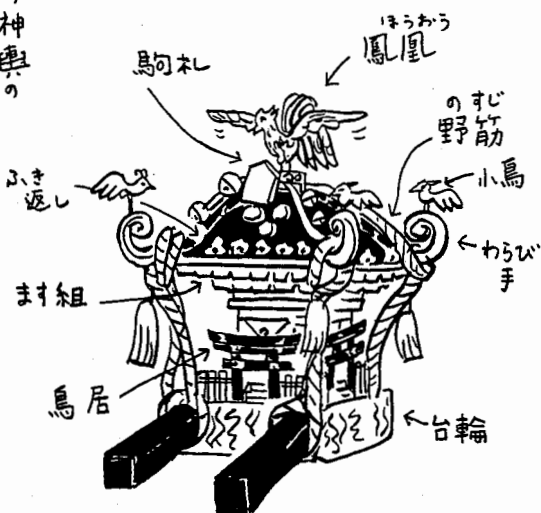
神輿(みこし)あれこれ その(2)

講師 宮本邦文助商店 社長

宮本芳宏氏



お神輿の
主な各部の
名前を覚えて
下さい



さて

三社のお神輿の特長
ですが

- ① 野筋から巻きあがるのではなく
軒下より大きく握りこぶし
を振り上げたようなやうな手
- ② ふき返しはなく 屋根の
勾配がなだらうか
- ③ 周り物は極彩色
- ④ 落としても
怪我をしない
ように



へえ
今度の三社まつり
には三社をつけて
見なくちゃあ



By 原えつお-

次回は9月2日(木)講師は阿木翁助氏の予定です。

福岡 詩二さん…

バイオリンを弾く棒の代わりに、ネギを持っています。「私はこの間、カーネギーホールに出演しました。」と言って、ネギを放り投げます。「ハイ、これが本当の『買うネギ放る』です」。

このネタを私は、もう三回目くらい見ているのですが、秀逸ですね！ 判っていても、笑ってしまいます。例のバイオリンの壊れるのなんか、何回見たでしょう。一回だけやってくれない時があつて、その時は、胸のつかえがありました。

デン助劇団のやっていた、松竹演芸場で、がんばっていた人達が野毛の大道芸に出ていて、凡平さん、人間ポンプの園部さん（私はこの人の芸も好きでよく見ました。「ハイ、危ないから扉をあけないで下さい。プワー！ わっ！ 口から火を吹きます。金魚や碁石を飲み込んで出したり、何と碁石は白黒を自由に）。詩二さん…（本当は浅草の人間としては一寸複雑な気持ちでしたが…）下町七夕まつり（うちの通りの）への勧誘に、野毛に（通りの）皆んなで行きました。

詩二さんは来てくれました。それから何回も、今も来てくれています。

私も一寸追っかけ？ で、江戸博へ、新宿へ、左図は有楽町ですか、上野へ（夏の納涼大会へは通りの皆んなと行きました）。

洒落ているのです。お一人でやるのもいいですが（江戸博で見たのですが）、弟子の詩絵さんが風船の芸で、詩二さんが優しい老ピエロというのが、パリのショーみたいで素敵でした。

浅草演芸ホールの余一会の時、この人達の出演される時もありますが、いつも見れる所があれば（デシ助さんみたいな軽演劇も）良いのにな、いつも思うのです。

私は、落語ももちろん好きですが、こうした色モノの人達も好きなんです。

お・お・君の浅草歌舞

⑩⑨ いろものの人たち

原えつあ.



（これは、はたのぼるさんの、ごんホースご曲をふくサマ、のつモリ）

（浅草で、こうした、いろいろの皆さんが
いつもみれるところが、谷沢いいですね）

（もっとたくさん皆さんでしたが、
かけなくて、すみません）

さて左ページの矢先稻荷神社の高島宮司さんにも、「浅草文庫講演会」の講師をやって頂きましたので、ここにその後の講座について記さして頂きます。

番外にて 浅草興業界のウラ話

(小俣貫一氏)

第十四回

泉鏡花と浅草

(村松定孝氏)

第十五回

映画・浅草の登音

(小宮 隆氏)

第十六回

浅草紅団ほか

(小林高寿氏)

第十七回

現代都々逸とその流れ

(吉住義之助氏)

第十八回

江戸太神楽について

(みす乃家南玉師)

第十九回

伝法院参観

(吉川真浩師)

第二十回

浪曲と浅草

(芝 清之氏)

第二十一回

放送と浅草

(中村清次氏)

第二十二回

シミキンさんの話

(朝霧鏡子氏)

(逗子とんぼ氏)

以上にて、毎回45人位の方々が見え、好評でしたが、「浅草文庫」のある東京電力サービスステーションのビルが改築の為、一次中又という事になりました。

又、この「漫画化」の方も、浅草誌の紙面の関係でなくなりました先生方には、大変申し訳なく思っております：(機会がありましたら：)。

さて、高島宮司さん(左図)には、この他イラストまっぷをかかせて頂きましたり(我家の地鎮祭にも御足労頂きましたり)、色々とお教え頂いております。インターネットを駆使されたり、この様な折り紙教室をやられたり、面白い方だと思えます。

歩散草浅の君の

春近し

原えつあ



先日 松が谷二丁目

に、ある

矢先 稲荷

神社で

行われまして

おひなさまを

折る

折り紙 教室に

行って

きました。

私も作って

みました

こんな



かんじ

です

どうか

すか



カラー印刷物も

名物の 天井 絵馬の

又、当日は、甘酒や

行われるようです

初午祭の時も(3時より)

3月9日の

この 折り紙の会は

もうえる他、

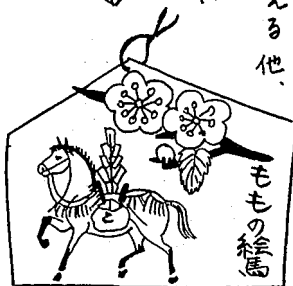
春うれい

絵馬も

わけて

頂ける

そうです。



もも...は、百々に通じ、沢山の願い事を叶えてくれるのだ
そうです。

平成6年2月号

さて、矢先稲荷神社は

寛永19年（一六四二年）の創建

ですが、当時、新両替町に住む、

弓師備後（びんご）という人が、天海僧正

の取り次ぎで、家光公よりの

下賜金と、各武家の協力で

浅草に、三十三間堂を

建て。

そもそも三十三間堂は

京都が有名（今も一月

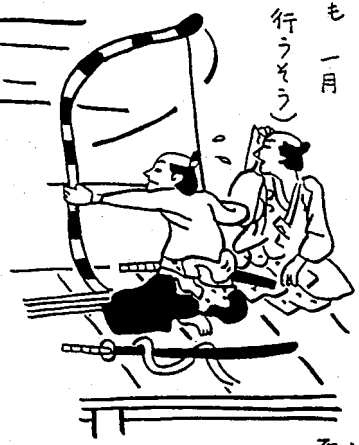
十五日には、通し矢を行うそう）

ですが、浅草にも

あったのです。

えー！
三十三間堂が
あったの
ですか

浅草三十三間堂が
あったところ
的の先にあたること
にあったので
矢先...と、いいます



原えつあ

今で言う
スポーツアリーナ

でしようね、そして

その的の先に

あたるところに、あった

稲荷神社なので

矢先、稲荷神社

と、言うのです。

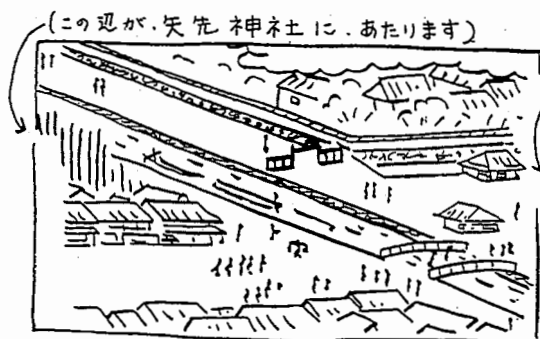
浅草名所七福神

矢先^や稲荷^{さき}神社^{いなり}

〒111 台東区松が谷2-14-1 TEL. 03-3844-0652

下図は、現在の、かつ橋道具街は

新堀(しんぼり)川と、いわれ、江戸時代
交通の手段として、使われていた図です。



その他、矢先神社には、百枚にも
及ぶ、馬の天井絵馬

(海老根 駿堂画伯)

が有名で

神代から現代
までの、歴史の
たどれる馬図
で、壮観です。



(これは、楠正行
くすき まさつら)

右下図は、その通れ矢の様子
を描いたものですが、
一昼夜に、一万本も通す、と、いうので
座っているのです。
三十三間堂は、おれくも 元録
11年の火災で焼失し、その後
深川へ移りました。

この頃は、国産米不足で大変でした。結局、タイの人達にも悪印象を与えてしまいました。今にしてみれば、こんな事があったのかと思います。今の不景気もこうなるのでしょうか。

聖徳太子の593・摂政になった年の覚え方です。私はこうでしたが、今は違うのかも？

そう言えば、小六の時の服部先生が「イヤー明治だよロッパさん」^{イヤーロッパ}1868年・明治元年の覚え方を教えてくれましたが（実はこの時：私が小六の時、古川ロッパさんは亡くなられているので、小学生では知らなかったと思います）が、何故か一回で覚えてしまったのでした。

その服部先生は金竜から済美の教頭になられたのですが、早世されてしまいました（今も車坂のお宅には、先生の表札にフルネームがありますので、近日おじゃましてみようと思っています）。

この頃、私は曲亭馬琴の（有名な）里見八犬伝の続きを：考えていました：

馬琴は、義娘のお路の手をとると：

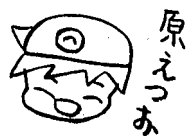
「有難う、お陰で八犬伝は完成した。しかし、このお話は実話なのだ。おまえは一つ玉を持っているであらう」

「ええ実は、太郎が生まれた時、お話と同じで玉を持って生まれたので神憑り^{かみが}的で、びっくりしたのです」「その玉には「孝」の字が入っていたのです。その事もあって、お義父様の目が見えなくなつた時、お義父様の目になろうと思ひ、読み書きの出来ない私はがんばれたのです」「おお、そうだったのか。有難い事だ」と言つて、馬琴は目を閉じるのであった。

お話變つて、こちらは浅草なめくじ長屋：

江戸時代でも、私はこの馬琴や京伝の時代が好きなのであります。

散草の浅草 歩



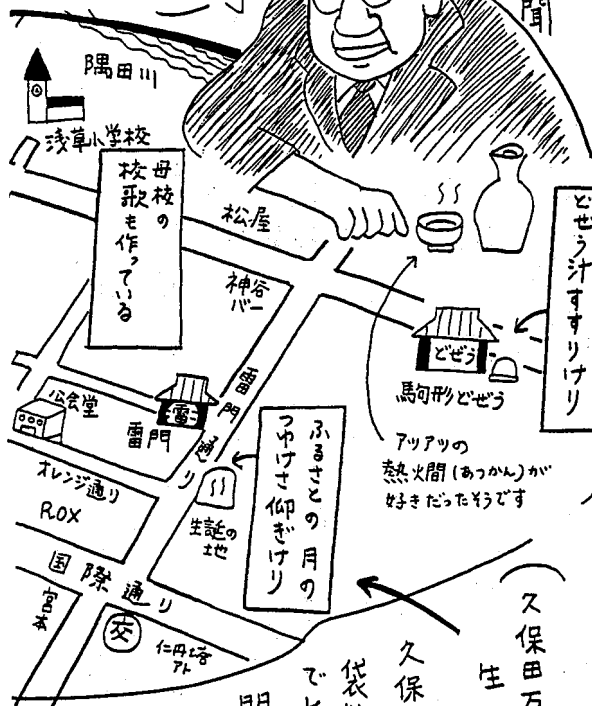
(112) 土也口千子火丁 その2



会より 草 第1

浅草生れの浅草育ちの
久保田万太郎先生に
ついて、愛弟子の
阿木公羽助氏より
面白くて、涙の出そうな
お話しを、泥山、お聞
き、致しましたが、
今回は先ず
浅草にある
句碑の話です

へえ、
こんなに
あるのか



(久保田万太郎
生誕の地)

久保勘と言う
袋物屋の息子
でした。

明治

22年生れ。



By 原えお

第9回 浅草文庫講演

久保田万太郎と浅

講師 劇作家・放送作家

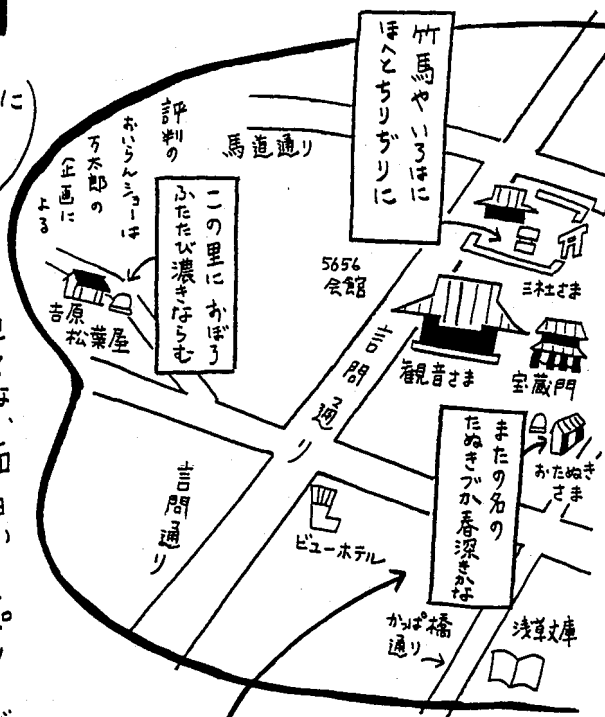
阿木 翁助 氏

弟子と
一言うきり
子分でした



(句碑は浅草に
5つ有ります)

色々な面白いエピソードに
ついて、順を追って次回にて
かかせて頂くことに
致します
お楽しみに！



☆句碑は、死後建てられたもの
が多く、生前のものは、ここ
鎮護堂(あたぬきさま)のもの
だけだそうです。

昭和4年

それまで伯母がやっていた

並木倶楽部の経営を

父がすることに

私は、毎日出入りして

あり、小学二・三年ころ

下足番や、お茶入れ

掃事など、

手伝いをする

ように

なり、

ました

色々な芸人さんが

きて、楽しい

毎日でした。



実は

昔、落語や講釈や

浪曲などは

雨路天でやっております

とこにわたされた家

がある

よしを

はって

やりました

が、だんだん

客のくれる

少なくなると

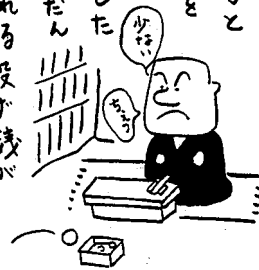
悪態をつく芸人が増え

敬言察から睨にらまれる事に

なり、観音さまの境内くうい

しか、出来なくなつたのです。

そして、並木倶楽部も、色々な芸人さんに利用される事になつていくのです。



エエ

余談ですが、私の若いころ観音様の境内には

気合術

というものが

ありました

後、に回された

腕が動かせ

す、いい！と思ひました

あとで、トンカツ屋で、お金の

やりとりしてゐるころを

目撃したのです

サクラだったの

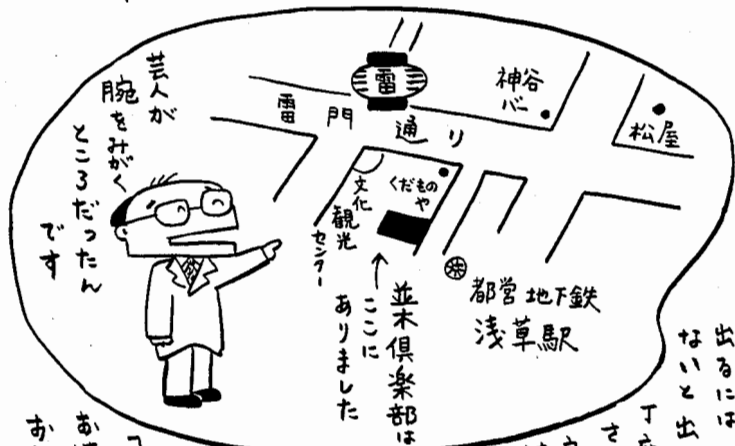
です。すね。

ごも、ごも



浅草文庫第10回講演会より

並木^{なみき}倶楽部^{くうぶ}に来た芸人^{よゆうい}たち その1
講師 鎧屋紳士服店 松本敬三氏



さて

六区^{ろくく}の金車亭^{きんしゃてい}などに
出るには相当^{さうたう}うまく
ないと出^でられませ^んん

丁度^{ていど}前座^{ぜんざ}
さんなどは

良い練習^{れんしゅう}の
無^む研^{けん}合^{ごう}口^{くち}
となりま
した。

志^しん生^{せい}・文^{ぶん}楽^{らく}・今^{いま}輔^{すけ}さん
なども出^で演^{えん}しました。

志^しん生^{せい}さんほ、高^{たか}座^ざで
酔^よって、ねてしま^った
話^わは、有^あ名^なです^ね

「なかして
あけ」と言^いう
お客^{きやく}さんも
終^はです^ね。



文^{ぶん}楽^{らく}さん



うーい
ちうのめ^めね

志^しん生^{せい}さん

なかして
あけ

さて、次回^{じぎ}は、どん^どん^どな
芸^げ人^{にん}さんか出^でてくるか
お楽^らし^めみに...

フ
ブ
ク



原^{はら}えつお



今^{いま}輔^{すけ}さん

「殿のお成り^な」こんな調子で三日月党の人達は、市川右太衛門さんを紹介すると何かの本で読みました。

正に、その様に右太衛門さんがお成りになりますと、場内大拍手がおき、ニコニコされて一人一人と握手く、幸せな人だなあ（私の好きだった東映の時代劇のスターは、この頃殆ど亡くなられていました。しかも右太衛門さんはその中でも御大^{おんたい}と呼ばれていた人です）、御自身の旗本退屈男の各ボスターなどに囲まれ、皆んなにサインをするのでした。

この会場で丹野さん（この本の冒頭の所に、御登場されています）と会いました。

この頃、有遊会に入れて頂きました。小島会長以下、神津先生、一鶴師匠、遠藤先生、大内さん等々、壮々たるメンバー、高田米造さんと一番前の席に座りました。

線香の燃え尽きるまでに小話を作るなど、蜀山人もやった事なのだそうで、いよいよ私も江戸に突入かなと思うのでした（今村先生がおられないのは本当に残念でした）。

この頃、「浅草文庫講演会」は13回を紹介、講師は吉村平吉先生でした。各講師の皆様の話を全て載せさせて頂き、この本を見て下さる方々に一つ一つ見て頂きたいのですが、申しわけありません。せめて各先生のお話のうち、一枚づつ載せさせて頂く事と致しました（本当に、講師の皆様、面白いお話を有難うございました）。

この頃、悠玄亭玉介師匠の葬儀あり、又一つ、浅草の宝がなくなりました。

この頃、「米」騒動につづき、スーパ―は「ネギ」が異常高をしていました。

この頃、松が谷の「小俣貫一^{こまた}」さん宅へ行き、終戦直後の松竹演芸場の事、戦時中の慰問団のお話、曾我廼家五九郎さんから木内さんを紹介されたお話など、本当に驚くお話ばかりお聞きしました。

お・お・お君の浅草最中

113 市川右太衛門展



主催が三日月天狗、諸羽会・とはうれしいですね

4月の15日より4日間

浅草公会堂にて

ご存じ旗本退屈男

市川右太衛門展

が、成皿大に開かれました

七百支もの、当時の

ポスターなどが並び

壮観！でした



待つました！の

大拍手の中、御大も

あ出ましで



元気な

その

次を

見せて

くれました

映画と同じで明るく

豪放な人でした。



又、浅草の、映画館で、やれば いいのに

さて、今回より昨年の11月2日に
行われました、浅草文庫第11回
講演会につきまして、かかせて
頂きます。

ちようど

西の市を

前にしての

あ忙しいところ

ああと
就鳥神社宮司の

河野英男氏に

あ話し
頂き

ました。



先ず、御祭神の、あ話しからですが、
お二人の神様を、あ祀りしてあります

あ一人目は

あめのひわしのみこと
天日就鳥神で、

あまてらすおみかみ
天照大神が、天の山石戸に
かくれた時、山石をこじ開けた

あめのたがからをのみこと
天手力男命の息子で

二の時、司つかさどっていました、弦



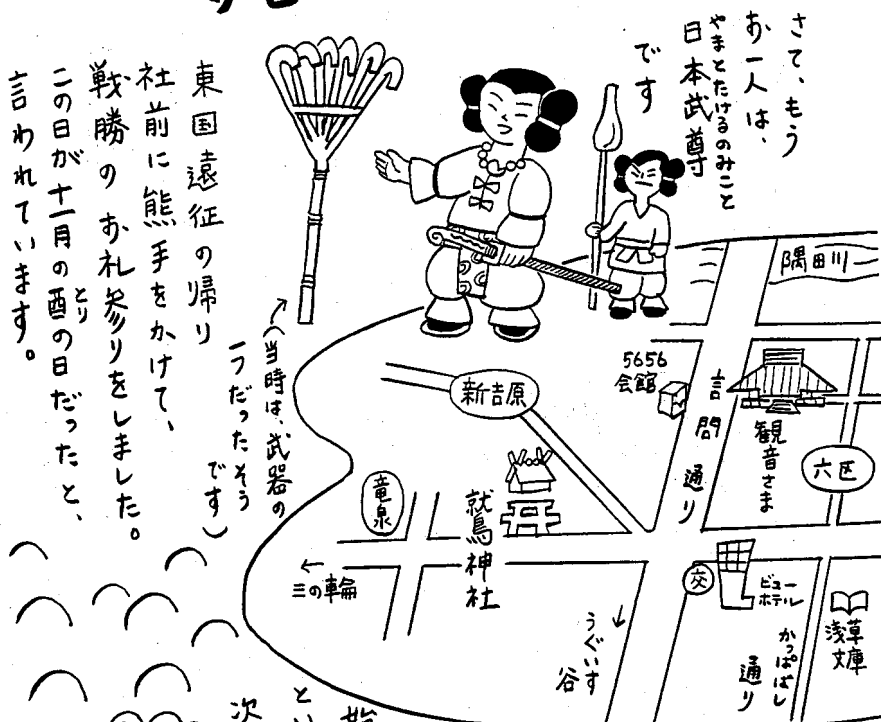
天日就鳥神は
その後開運、
増殖の神
として

全国に
祀まつられ
ました。



第11回 浅草文庫講演会より

「あ、酉さま」について・その1



東国遠征の帰り
社前に熊手をかけて、
戦勝のおれ参りをしました。
この日が十月の酉の日だったと、
言われています。



(当時は、武器の
一つだったよう
です)



By 原えつあ

「あ、酉さま」は、この
就鳥神社の愛称で、その
例祭は、昔は酉待、酉祭
と言われていました。が、
祭に付随して市がたつ
ようになり酉の市と
言われるようになりました
その賑いは、江戸中期より
始ったらしく、
次回のお話は

浅草文庫

第十二回講演会より

音のその2

都家歌六師匠

音の歴史のあとほ、
御本職の

ノコギリ演奏に、ついてです

西洋ノコギリは、元々

ミュージカル・ソー(SAWは、

ノコギリの事)と言う

くらいですから 楽器なん

だそうです。



ことです。

何んでも木こりの人の
余興を見た、ドイツ人の
行商人が、一八五〇年ころ
(ミュージカル・ソー)
歌うノコギリを
売り出し改米に
広まったと言う

その後、音楽家が弓で
弾く方法を考えたそうで。

改米では、コンクールもあり

とても人気がある

のだそうです。



歌六師匠は、この道

三十年なのだようですが

平成五年に

日本のこきり

音楽協会

が、発足(師匠は会長に推されたのです)

若い女性も

いっぱい

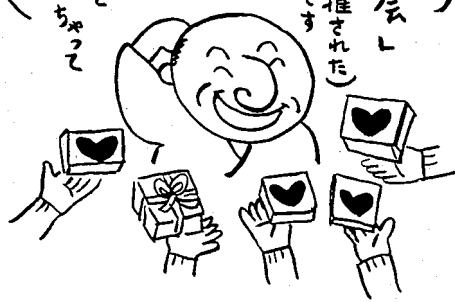
60才を超えて

バレンタイン

千ヨコレートを
はじめてもうっちゃんて

と、テレる 師匠

ですが



「夢のタンゴ」 興様お手をどうぞ

「ラ・クンパルシータ」

「ハンガリア舞曲 第5番」

「禁じられた遊び」

「アベ・マリア」

「鱈」

など

次々に演奏

して

頂きました

(さすがー
すごい)

師匠のノコギリ

演奏を見たい方は

浅草演芸ホールにもうっちゃん出演されています

ぜひ、どうぞ。



By. 原えつあ

今回は
エノケンさんの
ことについて
です

浅草軽演劇の 黄金時代

その2

浅草文庫 講演会

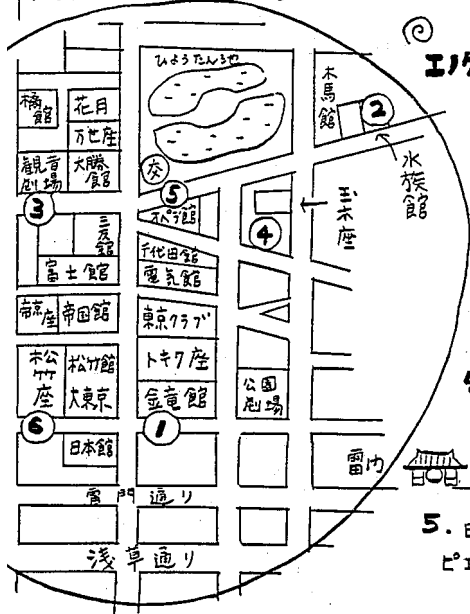
第13回

私が文芸部へ
入れてもらった
のは、
松竹座の
時です

講師 (作家・吉村平吉氏)



(国際通りより西5
→昭和10年頃の浅草の図)



エノケン略歴

1. 大正11年

浅草オペラのコースボーイになる
(金竜館)

2. 昭和4年7月

カジノ・フォーリー旗あげ(水族館)
川端康成の小説「浅草紅団」で
人気出る。

3. 昭和5年8月

新カジノ・フォーリー旗あげ(観音劇場)

4. 昭和5年11月

アパマンサント結成

(三木座)
(サトウハチローを文芸部長
※下は菊田一夫もいた)

5. 昭和6年12月

ピエルブリアント結成
(オペラ館)

ほくす
あとの
下を
見
て
の
活
躍

6. 昭和7年7月

ピエルブリアント
松竹の専属になり

(松竹座)へ進出

(150人の大劇団になる。)

今のROXです



マーで腫れの、エーケン
 一座の文芸部へ
 入れてもらった、
 吉村先生でした
 何しろ、
 文芸部だけでも
 菊谷栄はじめ
 30人近い
 有能な人がいるので
 使いはしりばかり...
 そのうち先パイが、大学へ
 通いながら文芸部は
 勤まるよ、と言うので、
 早大にハリましたか、
 モ子ロン早稲田村より
 浅草大学の方へ精進しました。

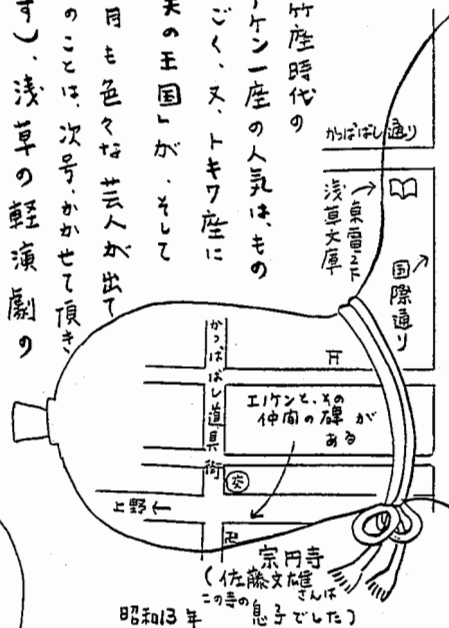


昭和十二年
 菊谷栄さん
 が召集され、すぐ
 戦死してしまい
 エーケンさんは
 その後
 元気を失ったと
 言われています



By 原えつあ

松竹座時代の
 エーケン一座の人氣は、もの
 すごく、ヌ、トキワ座に
 「竹天の王国」が、そして
 花月も色々な芸人が出て
 (このことは、次号、かかせて頂
 きます)、浅草の輕演劇の
 黄金時代だったと田んいます。



その後、エーケン劇団は
 有楽町へ進出しましたが
 浅草時代の光輝きは、あ
 りませんでした。



⑥ 兩國にて ↑ いつも お世話 になっ ている
北沢先生御兄弟と

↓ 紙芝居の
梅田さん

↓ 文福太郎
さん



⑦ 下町七夕まつり
にて

⑧ 木馬亭にて



← 木馬館?

いえ、

「沢正」の

御主人です

① 御自身の
金婚パーティで

②
吉村先生の会

↓ ロックン・ロック
にて



浅草演芸ホール社長
← 松倉さん

↑ 吉村先生

うしろのバンドは、
ダニー飯田とパラダイス
キングです。

このさる人とは、織田編集長の事で、この頃墨田区のお店のカットとか、人物とかの画を頼まれたりしていたのですが、相撲についても依頼されたのです。

相撲なら今は両国です。両国には、ライオン堂（力士用の服など売っています）など、それらしいお店があるので、先ず両国へ車（自転車です）を飛ばしました（何と言ってもこうゆう時は、先ず現地です）。「御蔵前書房」は、ライオン堂で教えて頂きました。「何だ逆戻りだ」、この辺（本所）あたりから対岸の（台東区側）を見ると、何となく北斎の気持ち判るような気がします（北斎はこの辺…本所割下水…の生まれです）。蔵前橋を渡って（場所は知っていました）、「そうだよな…両国の前は、ここに国技館があったのだから…一回だけ入った事がありました。それは高見山の引退の場所でした。イス席でした。

ところで高見山（今、東関親方^{あずまぜき}）は高砂部屋ですが、その高砂親方が現役の時のシコ名は、横綱・朝潮太郎です（私は朝汐^{あさしほ}の時の方が好きでした）。いつも若乃花に負けてしまいます（今の二子山親方、貴之花のお兄さんです）。しかしある場所、同門の若松部屋・潜航艇^{せんかうてい}・岩風の助けもあって優勝しました。につつき若乃花も、得意のハズ押しで破りました（しかし大体一ト月半…突っ張りで一突きと半分で相手を土俵の下までふっ飛ばすのが朝汐関の骨頂ですから、若乃花には随分苦労したものです）…だから私は、今でも二子山系は嫌いで、高砂系を応援しています…しかし、高砂系はどうして怪物（失礼）みたいな力士が多いのでしょうか（今の若松親方の朝潮でしょ、小錦でしょ、曙でしょ、水戸泉さんや闘牙^{とうぎ}さんでも普通？ に見えますね、（失礼）。

この頃、一寸嫌な事があり、この「忍耐」の色紙には力づけられました。

「フレー・フレー・高砂く」。

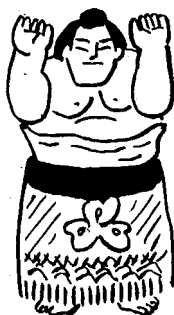
歩草浅の君の歩草浅

(115) 相撲の町



原えつお

さる人より
相撲の画を頼まれ
両国の町へ行くと
地下鉄蔵前の駅の
そばにある
御蔵前書房を教
えられま
した。



古い米田付や字魚や
ものすごい数で、右の
様な、メンコまで
売っていました。

ところで我家にも昔、高砂部屋が柳ばしに
あったところ、丁度部屋の前に 住んでいる
伯父にお願して
頂いたこんな
色紙があります



さすがに
でかい手
これで相手を
一ト突半で飛ばした
のですね。



おれに行く前に七くらわれ
てしまいましたか
私は 高砂部屋のファン
です、おまけに、浅草に
今、所在する部屋は
高砂だけなので
余計応援した
いのです。

小錦関、水戸泉
関、それから一門の
曙関など、がんばっ
て欲しいです。

(46代横綱 朝潮)

※高砂部屋は、橋場1丁目にあります。

浅草興行界のウラ話

その1



下の写真は、戦時中のもので、上海の陸戦隊本部のものです（若き日の小侯さんも写っています）

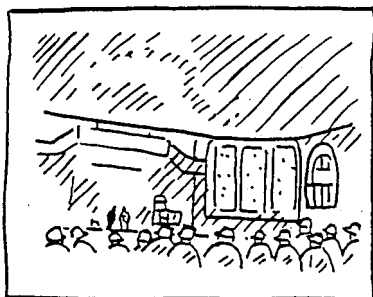


あ、聞きしました事を、まかせて頂きます。

今月より浅草文庫講演会に、ついでに御報告は、一寸、小休止させて頂きまして、浅草興行界の裏話について貴重なお話しを、松が谷三丁目にお住いの小侯母貞一さんより



巴家寅子隊長



これは杭州に、行った
時のものです。

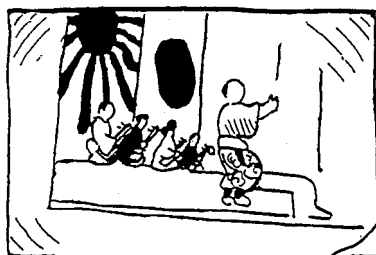
北京

南京

上海

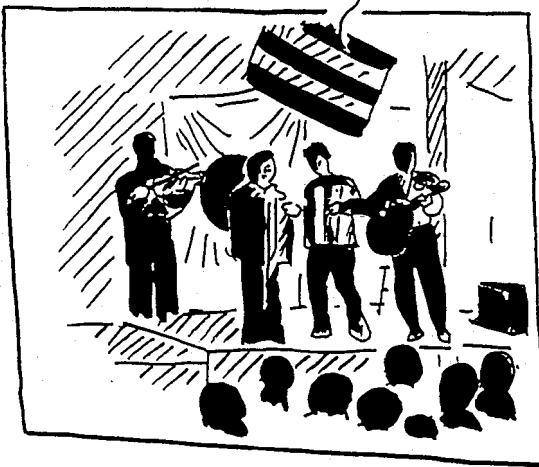
杭州

これは上海の時に
どいつか、かつぽれとか
粋な江戸趣味な
一座だったようです。



小侯さんのお父さんは、巴家寅子^{とまゑ}と言う人で
関西を中心に人気のあった芸人で（浅草の
花月にも出演していたようです）
30人の大慰問団で中国各地を回った時のようです。

これは、陸軍の依頼で
北支にいった時のだ
ようです。



さて、その小侯さんが、特に、東京大空襲
のあとの、火焼け野原の浅草でがんばる
お話は... 次月と、させていただきます。

By. 原えつお